

ベスビオ火山（イタリア）

今年の9月中旬にイタリア南部のナポリを訪問し、その近郊のベスビオ火山へ登る機会を得ました。この日は快晴で気温は最低18℃、最高28℃。湿度が低くさわやかな天気でした。

ベスビオ火山はナポリの街のどこからでも望むことができます。2000年前の噴火でポンペイの町を埋め尽くした山として世界史の教科書にも載っている、あの山です。そのポンペイ遺跡は世界遺産であり、イタリアの一大観光地となっています。高度な石作りによる公共施設や住居の一つの町であり、見学に半日はかかる広大なも遺跡です。ちなみに2000年前の日本は、縄文時代で竪穴式住居の時代でした。

ポンペイ遺跡入口の広場から、登山バスが毎日発着しています。登山口（高さ1000m）まではノンストップで約1時間、富士山のような山裾をジグザグに登って行きます。登山口にはゲートがあり、入山料9ユーロ（1ユーロ163円）を支払います。そして木の杖を受け取ります。続々と訪れる登山者にさぞ観光収入も集まりそうです。その分、道はきれいでゴミ一つなく良く整備されています。初心者でも登れるため、世界中から老若男女のハイカーが集まっています。登山道からは眼下に、世界3大美港のひとつのナポリ湾と、ナポリの市街が広がります。湾は遠くソレント、カプリ島まで広がり、ここから夜景はずばらしいそうです。

約30分の登りでお釜に到達です。ベスビオ火山は高さ1281mとそう高くはありませんが、山頂部は均整のとれたすり鉢状の噴火口です。噴火口は直径600m・深さ200m、上からのぞくと引き込まれそうな緊迫感がありました。1944年にも噴火したそうで、一部から蒸気が上がって活火山であることがわかります。最近また不安定になり、登山禁止令がいつ出されてもおかしくないようです。山頂には売店とお鉢めぐりができるルートがあり、時間があればゆっくり回りたいたいところでした。

下りはまさにナポリの街を見下ろしながらの快適な帰路です。道の両側には火山岩が剥き出て僅かな植物が生え、木は育たないため視界をさえぎるものはありません。再び登山口へ戻り、借りた木の杖をもどそうとしたら、チップを要求されてしまいました。借りたときは親切だなと思っていましたが、イタリアの登山では無料のサービスはないようです。町にはスリも多数いますので気をつけましょう。

2007年11月号



ポンペイ遺跡とベスビオ火山



ベスビオ火山の山頂部（お釜）